

高野 寛子（たかのひろこ）氏（旧姓渡辺）

卒業年：平成 13 年 3 月 専攻：果樹 住所：奥州市



1 現在の経営概要

りんご 9.1ha、りんご苗木 0.7ha、りんご育種 0.4ha

2 経営での担当部門、取組状況、経営の特徴など

3 児の母として、また、紅果園の共同経営者として、育児から経営全般を夫とともに担っています。

経営の特徴としては、①スマートフレッシュ（鮮度保持剤）処理をしたりんごの周年販売、②紅果園オリジナル品種（紅ロマン、ゴールドロマン、奥州ロマン、藤原ロマン）による差別化、③りんごジュースなどの加工品のほかに、藤原ロマンのセミドライフルーツなど積極的な 6 次産業化、④苗木生産を行うことにより品種更新が容易、消費者ニーズに対応しやすく、また、冬場の従業員の周年雇用が可能など。

3 就農しているなかでの苦勞、良かったこと

○ 大規模なため、現場管理から経理、営業と幅広い業務があり、経営者としての意識改革が必要なこと。

○ 良かったことは、りんごを通して、様々な人に出会えること。

4 農大での学生生活（役に立っていること、もっと勉強しておけばよかったこと、思い出など）

○ 役に立っていることは、学生時代に出会えた友人や先生方とのつながり

○ 農業経営、土壌学、肥料学。技術は現場で覚えられるが、理論的裏付けを学んでおけば良かった。

5 将来の夢、目標

次の世代にも江刺ブランドを盛り上げてつなげていきたい。

6 在校生への激励メッセージ

自分自身を振り返ると、農大で過ごした 2 年間はとても充実していました。友人や先生方にも恵まれ、りんご作りの面白さを感じることができたのは、ここで過ごした 2 年間があったからだと確信しています。農大は、様々な分野の先生方が集まっている恵まれた環境です。色々なチャレンジができるチャンス場所だと思います。チャレンジして、失敗して、学ぶことができるのは学生生活の特権なので、ぜひ学生の皆さんには、様々なことにチャレンジ、挑戦してもらいたいと思います。

そして今、農業は様々な側面を持つ産業へと変わってきています。「地方創生」は地域の基幹産業である農業が大きな役割を担い、それに伴って他産業との連携が必要不可欠となっています。既存の農業経営者ではない、新たな発想ができる農業経営者が求められている中、自分の個性が活かせる農業という職業はやりがいのある誇れる職業です。ぜひ、あなたの個性を地域の農業に活かして、一緒に岩手の農業を盛り上げましょう。

7 HP、ブログ、Facebook の有無

Facebook に登録しています。

8 取材後記（取材職員記入）

神奈川の子供から就農の夢をかなえるため、農大に入学し、現在、県内でもトップクラスの果樹園の共同経営者として夢実現に向けて頑張っています。嫁の立場から共同経営者になり、経営全般のことを目配りするようになるといういろいろな経営管理も必要になり、苦勞は絶えないようですが、その分やりがいもあるようです。高校生当時、就農したいという進路変更に対しては御両親は猛反対したそうですが、今の寛子さんの姿を見て喜んでいるそうです。これがなにより成功した姿を物語っているのではないのでしょうか。江刺りんごの担い手としてますます活躍していくことが期待されます。

